

市民・事業者・行政が協働したリユースの取組推進 リユースプロジェクトについて

〈報告者〉

吉原純一(名古屋市 環境局 ごみ減量部 減量推進室 主査)

永田秀和(NPO法人中部リサイクル運動市民の会 代表理事)

「第4次一般廃棄物処理基本計画」の策定

平成18年8月～平成19年9月

「ごみ減量先進都市なごや」検討委員会

専門的な見地から学識経験者が
行政施策全般にわたって議論

なごや循環型社会・しみん提案会議

市民目線でなごやが実現したい
循環型社会の姿を議論

「第3次一般廃棄物処理基本計画」
改定のための提言

しみん提案

基本計画素案(19年12月)

議会意見
パブリックコメント 等

第4次一般廃棄物処理基本計画の策定(20年5月)

しみん提案について

全ての“しみん”による合意

しみん提案～なごやが実現したい循環型社会の姿と
そこに至る道筋について～

行政
(計画・施策)

市民の取組

地域団体等
の取組

NPOの取組

事業者の
取組

パートナーシップ型の取組

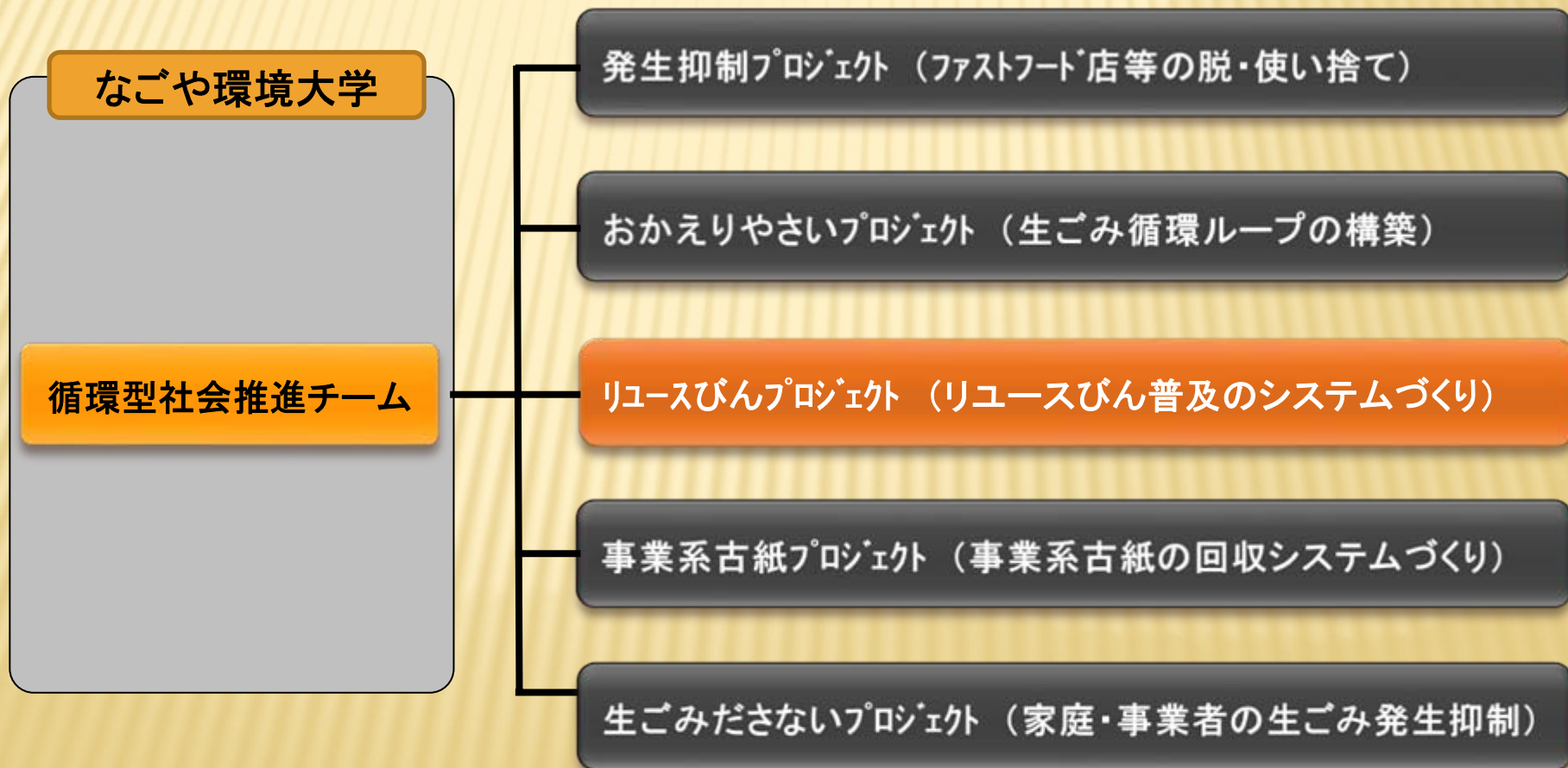
循環型社会の実現

しみん提案から立ち上がったプロジェクト

- × ●提案を行動につなげていく上で優先度の高い課題を中心に深掘りの議論（深掘り会議）。
- × ●中でも、「しみん提案」の中で早急に実施することが提案された取組課題の中から4つを選び出し、実践チームを編成
 - × 発生抑制
 - × **リユースびん**
 - × 生ごみリサイクル（おかえりやさい）
 - × 事業系古紙

循環型社会推進チーム

220万市民に発信された「しみん提案」の実現に向け、しみんが主体となった3Rの具体的な取り組みを、「なごや環境大学」(循環型社会推進チーム)の中で展開。



しみん提案の具体化に向けて

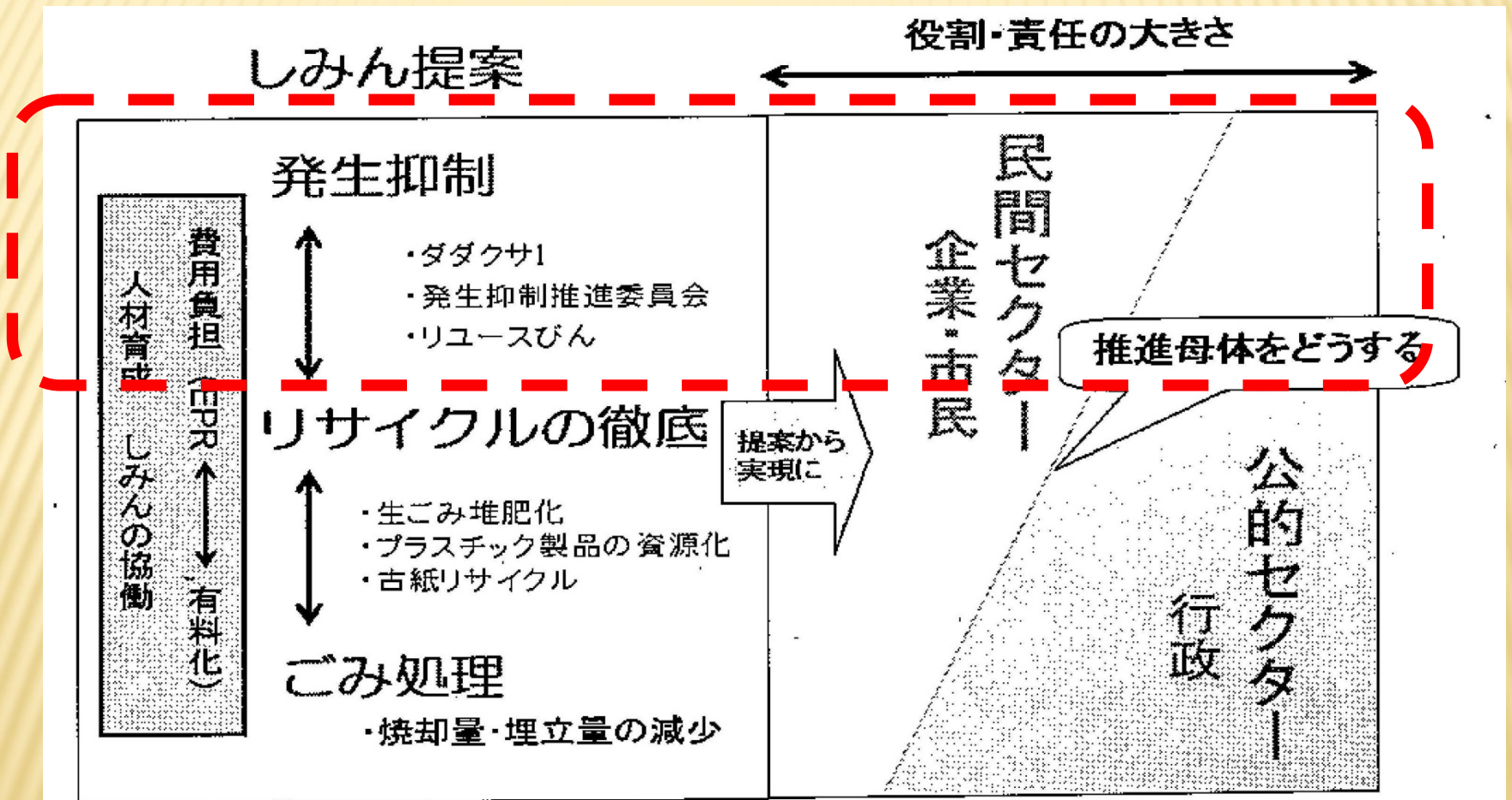
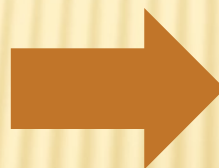


図 60 しみん提案の位置づけと役割分担

リユースびんプロジェクトメンバーの構成

様々な立場のメンバーが、共通の目的に向けて協働している。



リユース中心のライフスタイル提案
リユースびんの普及
リユースびんの回収システムづくり

リユースびんプロジェクトの活動

- × 1回/月程度の定期的な会議を実施
- × リユースをテーマとした講座の開催
- × リユース容器普及のための調査研究

名古屋市リサイクル推進公社「3R行動の促進についての調査研究事業」

テーマ：「なごやリユースびんルール」事業の持続的実施に向けた調査研究

- × リユースびん普及のための
パンフレット作成

名古屋市リサイクル推進公社「3R推進活動助成」



環境イベントでのPR活動



「環境デーなごや」

- ・リユース容器入り飲料の販売
- ・リユースびんに関するアンケートの実施
 - 「リユースびんのイメージ」
 - 「認知度」
 - 「飲み心地」
 - 「利便性」 など
- ・デポジット制を導入した、容器返却率の調査

地域に根差したリユースシステム —地域資源と仕組みの融合—

循環の地酒「めぐる」の取組

- × 名古屋市第四次一般廃棄物処理基本計画の策定に取り組んだ「なごや循環型社会・しみん提案会議」の重点プロジェクトの1つとして、「リユースびんプロジェクト」（現・リユースプロジェクト）始動
- × 「リユースびんプロジェクト」への壘商の参画をはじめとして、地産地消とリユースとのタイアップを模索
⇒2010年「めぐる」として結実。その後も継続した取組を展開。

循環地酒「めぐる」紹介



なごやを循環型社会にしようという人々が手を結び、
その思いがお酒という形に実りました。

名古屋市内で発生した生ごみを堆肥にし、それを酒造の水田で使い、
生産された米を原料として、愛知県内の酒蔵で醸造しました。
できたお酒はリユースびんに移り入れ、全ごみのみなさんに届き、
お酒を飲んだ後、びんの回収にご協力いただければ再びリユースされます。
食べ物を大切にしたい、だから生ごみの削減、愛酒を大切にしたい、だからリユース容器の循環。
「めぐる」は、飲む人、作る人、売る人、買う人いっしょに取り組みことで初めて誕生します。



～純米酒「めぐる」のこだわり～



江戸時代から醸造が続いている
老舗の水が原酒蔵が、米の持つ
生きかした風味で酒造りをして
ない味に仕上げた。

食中毒として食事をしながら
楽しんでいただくことができます。



愛知の自産「あいち
のかおり」米、愛知県の
生産者が試飲会で
賞状しました。

そのお酒を愛知県内に
ある酒蔵「あいち酒造」
で醸造しました。



名古屋市内で発生した生ごみを資源
として堆肥製造「アークトップ」が製造
してお酒（あいちのかおり）を育てました。
愛知県内で生産、販売、びんの回収を
することで都市や農家の循環型社会を
築くだけでなく、環境教育もしています。
酒の話し、使えるリユース容器「アーク
トップ」が採用しています。

日本酒まつりなどのイベントに参加



「なやばし日本酒まつり」



「愛知県農工商連携ビジネスフェア」

酒量販店での販売協力



- ◆協力店舗：
酒のすぎた
(愛知県内10店舗)
- ◆協力内容
 - ・めぐるの販売
 - ・Rマークびんの引き取り
(有価)

今後の展開

- × めぐるモデルの更なる普及
 - 事業の自立化が課題
 - 空びんの回収場所・方法の多角化が課題
- × 東海地域びんリユース推進協議会への参画
- × クローズドシステムによる新たなびんリユースシステムの構築